

1971年8月7日 第三種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）
1999年11月27日発行 SSKA通巻・増巻3416号

SSKA

ああるぴい

神奈川支部会報第13号



私たち自身で
治療法の確立と
生活の質の向上を目指す

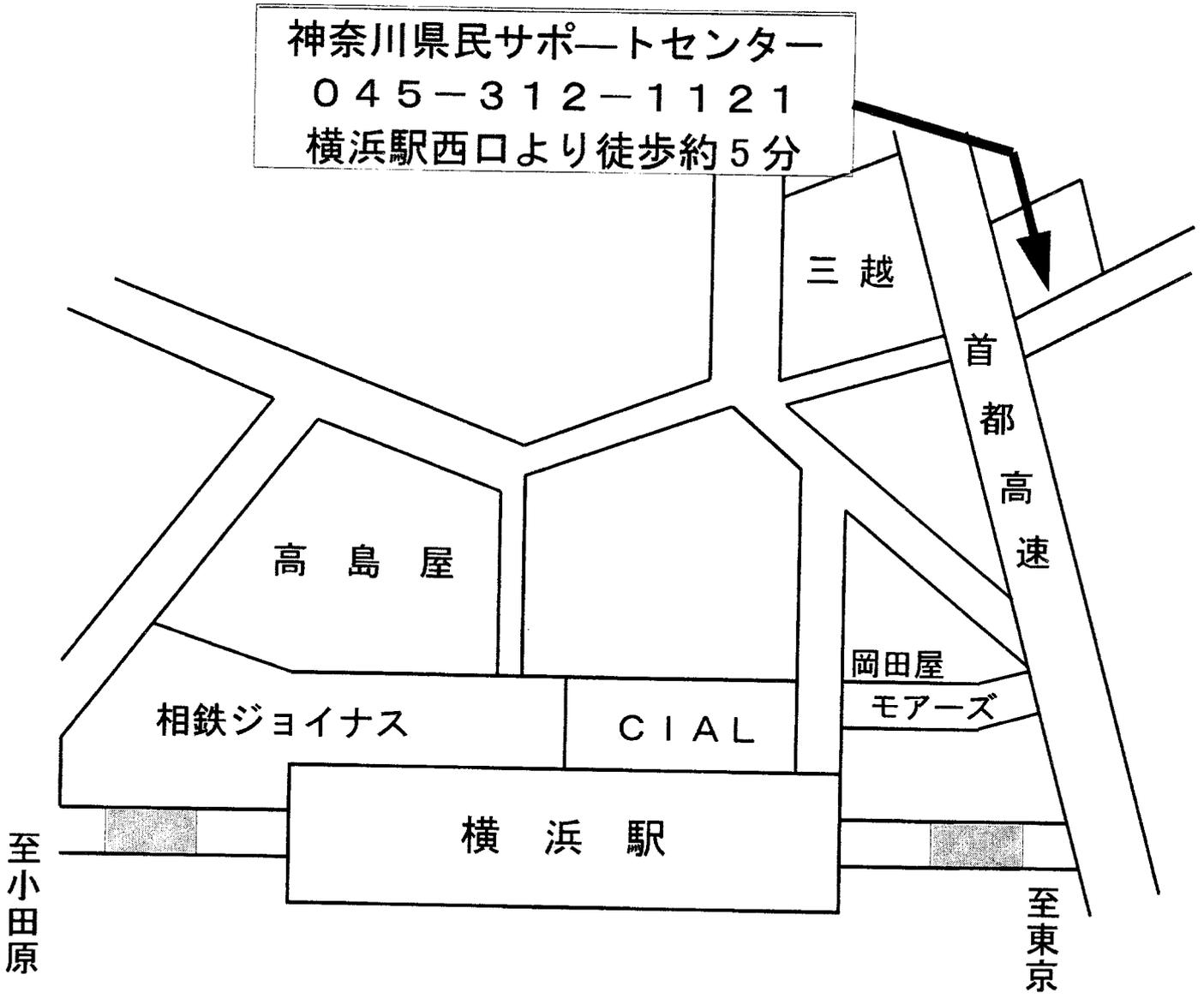
J R P S 神奈川支部

神奈川県民サポ-トセンター

- ・ (株) 東栄エンジニアリング
- ・ (有) 結伸工業
- ・ 英弘精機 (株)
- ・ フォトプレシジョン (株)
- ・ (株) ナカダ技研
- ・ 高木 緑様
- ・ 木村邦雄様
- ・ 細川和明様
- ・ 豊嶋識明様
- ・ 宮戸征美様

☆ご支援に心より感謝いたします☆

神奈川県民サポ-トセンター
045-312-1121
横浜駅西口より徒歩約5分



目次

—	J R P S 神奈川の活動	—	2
	●活動予定		2
	【チャリティーコンサート《起死回生》】		2
	【医療講演会・相談会】		4
	【合宿交流会のお知らせ】		5
—	情報コーナー	—	6
	●各地で支部設立の気運高まる！		6
	●障害者の日		7
	●市町村別特定疾患受給者数		7
	●連載 よもやま情報（9）		8
	●ドラえもんのポケット		9
	●元気の出るテレビ？いいえ、本です。		10
	●ロービジョンがますます充実！		10
	●生命保険募集開始のご案内		11
—	投稿	—	11
	●理療科(盲学校)奮戦記No. 7		11
	●「バトルトーク 目指せ12月26日！」		13
	●月の雫(しずく)		15

— JRPS 神奈川の活動 —

●活動予定

12月 4日 (土)	ミニ集会 (709号室)
12月25日 (土)	チャリティーコンサート準備
12月26日 (日)	チャリティーコンサート (ラポール)
2000年	
1月15日 (土)	ミニ集会 (709号室)
2月12日 (土) ~ 13日 (日)	合宿交流会 (湯河原)
2月20日 (日)	医療相談会 (402号室)
2月26日 (土)	会報14号発行
3月 4日 (土)	ミニ集会 (603号室)
3月11日 (土)	第二回視覚障害者総合福祉機器展準備
3月12日 (日)	第二回視覚障害者総合福祉機器展 (ウイリング横浜)

※ミニ集会等の部屋番号は全て県民活動サポートセンターです。
場所は表紙の裏の地図を参照して下さい。

ミニ集会は午後1時~4時。

※チャリティーコンサート、交流合宿、医療相談会の詳細は下記に掲載。福祉機器展示会の詳細は2000年2月発行の次号で詳細をお知らせします。

【チャリティーコンサート《起死回生》】

—趣旨—

1. バリアフリー化が遅れているために、生のライブを楽しめない障害者のため。
 2. 視覚障害の原因となっている難病の治療法の研究への寄付。
- この2つを目的にチャリティーコンサートを企画しました。コンサートの趣旨に賛同してくれたバンドとスタッフで力を合わせて準備し

ています。当日は、障害者も健常者もなく楽しいコンサートになる
と思っています。また、コンサート当日は新横浜駅（JR線、市営
地下鉄）に誘導及び介助スタッフを配置し、安心して会場まで来ら
れるようにしております。必ず楽しめると思います。ぜひ、遊びに
来てください。

尚、車でご来場の方は直接ラポールへお問い合わせ下さい。

○日時 平成11年12月26日（日）
11時30分開場 12時30分開演

○場所 障害者スポーツ文化センター・横浜ラポール
横浜市港北区烏山町1752番地
045-475-2001

※ 新横浜駅より徒歩10分

※ 新横浜駅前バスターミナルからリフト付送迎バス（無料）有

○出演バンド

- ・ I - r o (アイロ) 福岡 克 (G・Vo)
鈴木 勝 (B・sideVo)
木川敏夫 (Dr)
- ・ ゼリー・ビーンズ 溝呂木 薫 (Vo・Dr・Key)
児玉 峻 (G) 脇田洋太郎 (B)
小島健司 (Dr) 竹田 晃 (P)
- ・ F I Z Z (フィズ) 竹田 敦 (Vo) 高橋 誠 (G)
杉山幸夫 (G) 松崎博之 (B)
宮村 聡 (Dr)

○ゲスト出演

- ・ T i g h t r o p e (タイトロープ)
佐原昌弘 (G) 山口正彦 (B)
篠崎 努 (G) 川藤 (Dr)
森野昌子 (Vo) 李 (Key)

○入場料 1500円

○主催 JRPS (日本網膜色素変性症協会)

○協力 Sound Studio POWER HOUSE

○問合せ先 内田 知 (うちだ さとる)

電話 04 *

携帯 09 *

○チケット入手方法

チケット代金は、同封の郵便為替用紙にてお振り込み下さい。
入金を確認しだい、チケットとパンフレットを送付します。

【医療講演会・相談会】

昨年講演して頂きました、県リハ病院眼科の仲泊先生をお招きして医療講演会を開催致します。今回は、多くの会員が悩んでいる「色変と白内障」にテーマをしぼって講演頂き、その後、たっぷり時間を取って、質問に答える形での相談会にしたいと思っています。白内障に悩む会員はもちろん、眼科医の先生方、ロービジョン医療関係、生活訓練、保健・福祉関係の先生方もご来場頂ければ更に充実した相談会になると思いますので宜しくお願いいたします。

○日時：平成12年2月20日(日)午後1時～4時30分

○場所：県民活動サポートセンター4階

○プログラム：午後1時～2時

医療講演

午後2時～3時

質問を受けての相談会

午後3時～

15分の休憩

午後3時15分～

「白内障の手術をした人これからの人」

体験談をもとにパネルディスカッション

午後4時30分終了

○医療講演：「網膜色素変性症と白内障」

○講師：神奈川県リハビリテーション病院眼科

仲泊 聡 先生

○参加費：500円(資料代、会場費として)

会員の付添いの方は無料

※場所はミニ集会の建物の4階です。

※問合せはJRPS神奈川事務局まで。

電話 04 *

【合宿交流会のお知らせ】

神奈川県支部の皆さん、こんにちわ！今年も慌ただしく一年が過ぎようとしていますが、日頃の疲れを吹き飛ばす企画をご紹介します。神奈川の色変患者が湯河原温泉に集い、日頃のあかを落とそうというわけです。色変の知識や患者相互の親睦を深め、神奈川県支部の交流の輪がさらに広がればと考えています。

○日時：平成12年2月12日（土）～13日（日）

○場所：湯河原温泉旅館「豊仙」

電話：0465-62-9196

○内容：合宿交流会、懇親会、名所見学

○定員：宿泊上限 35名（他府県、神奈川を合わせて）

○費用：12,000円（宿泊費・昼食含む）

県福祉バスを利用しますのでこの価格です。

残金については2002年世界大会基金に募金致します。

○申込：大窪 融（おおくぼ とおる）

〒240-0016 横浜市保土ヶ谷区

電話・FAX：04 **** * * * *

○行程：

2月12日（土）	9：00	横浜駅天理ビル前出発
	10：00	本厚木駅南口
	11：00	平塚駅南口
		（横浜駅一本厚木駅一平塚駅を経由します）
	14：00	湯河原温泉 到着
		見学（場所未定）
	16：00	豊仙 到着
	18：00	夕食・懇親会
2月13日（日）	8：00	朝食
	9：30	チェックアウト・出発
	12：00	昼食・懇親会
	13：00	出発
	15：00	平塚駅南口着
	16：00	本厚木駅南口着
	17：00	横浜駅前着

※旅館は貸切りです。バス旅行ですので、バス乗り場までの送迎を家族・友人にしていただければ、お一人での参加も歓迎します。障害の軽い人がサポートします。

— 情報コーナー —

●各地で支部設立の気運高まる！

神奈川支部では、活動の一環として近隣地区の活動支援を行なってきましたが、少しずつ成果が出てきました。山梨では昨年、石和温泉において行なわれた交流合宿をきっかけに連絡会が発足され、現在、定期的に集会が開催されています。静岡では、今年の修善寺温泉での交流合宿に参加された静岡の会員の方や、その後当支部に連絡頂いた方を中心に、静岡県支部設立準備会に向けての第一回目の会合が10月に開催されました。静岡では来年2月の本部医療講演会も開催されますので、これをきっかけに活動は更に活発になると思われま

す。また、山梨の連絡会が開催した交流会に参加した長野県の会員が、神奈川のミニ集会、機器展示会などにも参加され、その後、何回か準備のための会合を重ねて、10月10日に第一回長野県支部設立準備会が盛大に開催されました。当日は参加者数約70人（患者・家族48人、医療関係者・保健所・行政・報道・機器展示業者等）で会場は満員の盛況でした。ちなみに長野のJRPS会員は30人弱です。眼科医師会の会長さんも開催時刻前から最後まで患者との話し合いに参加され、「眼科医師会として支援していきます」とのメールまで頂きました。保健所の保健婦さん達からは、「保健所間で連絡を取り合い、今後の協力を考えて行きたい」との言葉も聞かれました。来年の秋に支部設立を誓い合って終了しました。

神奈川支部はこれからも近隣地区の活動支援を展開し、どの地区でも話し合える場が出来るJRPSを目指して活動していきたいと思

●障害者の日

「障害者の人権110番」

横浜弁護士会では、12月9日（木）の障害者の日にちなみ、電話FAXによる障害者の人権に関する無料法律相談を、昨年に引き続き実施致します。当会所属の弁護士が法的な側面から、障害者又は家族の方々が抱えておられる様々な問題点について、ご相談に応じ解決の一助になればと実施致します。1日限りの電話相談ではありませんが、FAXも用意しておりますので、お気軽にご相談をお寄せ下さい。

○実施日時：平成11年12月9日（木）
午前10時～午後4時

○TEL：045-211-0133

○FAX：045-211-0144

FAXで相談の方は、連絡先明記の上、必ず時間内にお流し下さい。
障害者の人権110番の実施に関するお問い合わせは

弁護士会事務局（045-211-7707）まで。

—横浜弁護士会のパンフレットより—

●市町村別特定疾患受給者数

1999年3月31日現在、特定疾患の認定を受けた網膜色素変性症の患者数は下記の通りです。まだ申請されていない方、制度を知らない方、病気にかかっているにもかかわらず気付いていない方が多数いるのでは？

総数1264人

市町村名	人数
横浜市	437
横須賀市	86
大磯町	3
鎌倉市	34
葉山町	2
茅ヶ崎市	54
小田原市	51

市町村名	人数
川崎市	148
平塚市	22
二宮町	7
逗子市	11
藤沢市	52
寒川町	5
箱根町	4

真鶴町	2
相模原市	1 2 0
厚木市	3 4
座間市	1 9
清川村	0
中井町	5
松田町	2
開成町	4
津久井町	6
藤野町	4
伊勢原市	1 0
綾瀬市	2 1

湯河原町	4
三浦市	1 6
海老名市	1 7
愛川町	8
南足柄市	1 0
大井町	3
山北町	2
城山町	6
相模湖町	1
秦野市	2 0
大和市	3 4

—統計は神奈川県衛生部保健予防課による—

● 連載 よもやま情報（9）

◇税金の控除申請をお忘れなく

今年も残りわずか。年末調整の時期がやってまいりました。所得税控除として障害者手帳の等級が1～2級の方は特別障害者控除、3～6級の方は普通障害者控除が受けられます。手続きをお忘れなく。ちなみに住民税も控除があります。そして意外と忘れがちなのが自家用車の税金の控除です。その車の名義が障害者本人または障害者を常時介護している方ならばOK。福祉事務所で「専ら証明」という書類を出してもらって障害者手帳とともに県税事務所に提出してください。車の営業マンが手続きの全てをやってくれるはずですが、ただし、視覚障害の場合1～2級の方しか車の税金免除は受けられません。車の話が出たところで車関連のことをもう少し書いておくことにします。有料道路通行料が約半額になるチケットがもらえます。車検証と障害者手帳を福祉事務所に提出して発行を受けてください。そして、駐車禁止除外車両の指定も受けられます。公安委員会が指定した駐車禁止場所にも止めておける証明書が発行されます。これは最寄りの警察署の交通担当課で手続きをしてください。この2つの制度も1～2級の方のみが対象です。

●ドラエモンのポケット

♪♪こんな物いいな・できたらいいな♪♪

【秋の夜長の人工眼】

10月末アメリカでネコの目の神経に電極を接続して、ビデオでネコが見ているそのままを映し出す事が出来た！ との雑誌情報が飛び込んできた。早速アメリカの高野先生に訊ねてみたら、そんな事が出来れば、ロボコップの世界が実現！！??というのはこの問題に取り組んでいる人は、思いの外

「これが本当に解れば人工眼の研究が一足飛びに進捗します。現在の人工眼は人工の網膜が中心ですから、それが一気に脳（高次機能）までいけるからです。電極にCCD（ビデオカメラ）の世界です。どこまで本当かは今のところわかりませんが、アメリカという国は不思議な国で、まず100のニュースがあればその中で真実はたった一つでも、それが許される国です。しばらく様子をうかがっていて下さい（続報を待つということ）。」との返事。

やっぱり、秋の夜長の夢物語だったのかなあ・・

だけど、そういうの早く欲しいなあ。

【盲導犬ロボット】

ご飯も食わず、ウンチもしない、どこでも連れてってくれる「盲導犬」。そんなロボットを山梨大学が開発研究している。今年3月の視覚障害者総合福祉機器展では、大きすぎる等、実用化にはまだまだの印象だった。しかし、先日の日本経済新聞によると（山梨の保坂さんの写真入り報道）かなりの進歩らしい。持ち運びの簡単な「盲導犬ロボット」、食事は充電、ウンチなし、それならばボラな性格の私にも持てるかな？

ドラエモン、夏休みは熱くて昼寝の連続でいいネタなし。ゴメンナサイ。皆もいいネタ提供して下さい。ポケットは空っぽです。

●元氣の出るテレビ？ いいえ、本です。

『愛と命の賛歌・風を握る』

JRPS長野の女性会員が、10数年にわたり続けてきた作歌活動の集大成として歌集を自費出版しました。視覚障害をかかえた主婦の生活、家族とのかかわりがさわやかな歌に綴られています。家族の方に読んでもらいたい本です。新潟日報で紹介され大きな反響を呼んでいる本です。売上げは著者の好意で全額JRPSの研究基金に寄付されます。本代：2900円、送料：310円。

申込み・問合せ先：小野塚ゆか

電話・FAX：025-243-1677

E-mail：yonozuka@pc4.so-net.ne.jp

郵便振替口座番号：00230-7-20876

『見えない・見えにくい人の便利グッズカタログ』

視覚障害者が使って便利な品物を一冊にまとめた本が弱視者問題研究会の編集で、(株)大活字から発売されました。日常生活用品、ルーペ・単眼鏡、拡大読書機、パソコンソフト等など、満載です。パソコン部分の執筆は、お馴染みの園さんです。

購入の問合せ先：(株)大活字

TEL：03-5282-4361

FAX：03-5282-4362

●ロービジョンがますます充実！

ロービジョンクリニックの充実は、弱視の視覚障害者にとって、QOL（生活の質の向上）に不可欠のものです。このほど日本ロービジョン学会（？）が来春発足するとの報道がありました。

（朝日新聞）

神奈川では昨年ロービジョンネットワークが結成され、活動を始めました。眼科医、生活指導訓練・視能訓練士、ソーシャルケースワーカー、教育関係者、福祉関係者、ボランティア、視覚障害者が、残存視力・視覚を最大限生かして、QOLの向上を計ろうと言うネットワークです。日本ロービジョン学会が出来ることで、さらに

関係機関のロービジョンに対する関心が高まることを期待できます。しかし、肝心の患者がいなくてはせっかくの盛り上がりもしぼんでしまいます。見えにくい、見づらいと思う人、かかり付けの眼科でロービジョンの相談をしてみてください。きっと、もう少し見る・読むことが便利になるでしょう。もしロービジョンの設備がなければ事務局にご相談下さい。

●生命保険募集開始のご案内

前回、会報9号で視覚障害者補償プランをご案内致しました、大東京火災海上保険です。今年3月、聞き店に出展した際、数多くの皆様から生命保険に関するお問い合わせを頂きました。事務局と協議を重ね、11月より生命保険募集を開始することになりました。最初は神奈川県下のみの募集となりますが、弊社の募集体制が整い次第、全国に広げて行きたいと考えております。今後とも皆様のご支援をお願い致します。尚、詳細は下記までお問い合わせ下さい。

大東京しあわせ生命代理店
クローバ総合保険・川村耕二
TEL：0463-71-8794
FAX：0463-71-8795

— 投 稿 —

●理療科(盲学校)奮戦記 No. 7

佐々木裕二(小田原市)

今年もまた就職難という報道が聞かれる季節になりました。経済状況は底を打って、回復過程に入ったと政府ではコメントしていません。しかしその背後には多くのリストラや下請けに対する厳しい締め付けがあります。ですから、企業の回復イコール国民生活の回復ではないのです。もちろん、力強い経済の牽引者たる企業の回復なくして裾野の充実も困難だとは思いますが・・・。

とりわけ障害を持った者にとっては厳しい現実です。たとえ経理事務の能力があったとしても、車椅子の使用者ならばスロープやトイレの改造。視覚障害者であれば拡大読書器や音声装置などといった余計な経費が発生してしまいます。また、多くのことで周りの人の手助けが必要になります。生産性と効率を追求する企業活動にとっては決してプラスの存在ではありません。

では障害者はそういった企業活動の中に入っていきことはできないのでしょうか？いえいえ、多くの障害者が企業の中で活躍していますし、自ら経営者として活躍している方もいらっしゃいます。しかし、現実には困難な問題だらけです、何しろ健常者があふれているのですから。そういった中で盲学校でも卒業学年の子供達は進路の決定に困難を極めています。これは理療科で職業訓練を受けているおじさん達の話ではありません。いや、おじさん達も確かに就職難なのですが、それよりももっと学齢の子供達は大変だということです。中学なり高校なりを卒業したとしても、激しい競争でもまれてきた健常者には正直言って学力では負けてしまいます。もっと時間が必要なのです。しかし学校は卒業してしまいます。あとは何か専門教育を受けて技術を身に付けられればいいのですが、公的なものは盲学校の理療科くらいしかありません。職業訓練校というものもありますが定員が少なく厳しいようです。

ここまで書いてきて気が付いたのは、仕事というのは数字ではかれる能力だけではないということです。もちろん、任されて責任を果たすことのできるなにがしかの能力は身につけなければなりません。仕事をする職場というのは人間の集まりです。人間というのは感情を持っています、心の状態というのは仕事の成果に大きな影響を与えるというのは事実です。直接的な効率という内容で企業活動に貢献することが難しくても、職場の人間関係や雰囲気、ムードメーカーになるような努力は十分できるのではないのでしょうか？それは結局全体の仕事の成果に大きな影響を与えることができるということだと思ふのです。そう言えば五体不満足の乙武さんも書いていました。『障害者は現代の救世主になるかもしれない・・・。障害者がそこに一人いると優しさが生まれる。』と。

「一芸に秀でる」という言葉があります。仕事の能力でもよし、みんなを和合させる明るさでもよし。何か一つ身に付けさえすれば

生きていける、必要とされる道が必ずあると確信します。問題は、そのような能力を身に付ける機会が与えられているかどうかということであり、更に、障害者でもそのような多くの能力を持っているのだということの認識を如何に広めるかということだと思います。そういった観点から見て現実には充分だとはいえません。教育の機会にしても、障害者への理解にしても。

私自身目が不自由になる前は障害者に対してほとんど関心がありませんでした。何かの報道で見て「大変だな～」とか「すごい」と思ったとしても街中で出会うことはほとんどありませんし、会ったとしても戸惑ってしまいます。大多数の人がそうなのではないでしょうか。それでこうなってからよく思うのですが、もっと子供の頃から障害者との交流の場があったら戸惑わなくてすむんじゃないかと。いや、絶対あるべきだと思うのです。そうでなくては理解とか関心とかはなかなか生まれません、しいてはバリアフリーとか共生できる社会も、そういった考えも浸透しないのではないかと思います。ですから皆さん白杖を持って出かけましょう！街を歩いて自己主張しましょう。

今回はなんだかいつもと違った話しになってしまいました、文化祭や臨床での出来事はまた今度にしましょう。

いよいよ冬です皆さんお体に気を付けて！

●「バトルトーク 目指せ12月26日！」

内田 知（横須賀市）

1999年夏の熱い日、横浜のサポートセンターにウッチャンと3人の若者が集まった。社交辞令の挨拶と談笑が始まるかと思いきや激しい口論となった。話の元は、12月26日のチャリティーコンサートについてである。激論は3時間以上に及び、そのうち誰が言い出すでもなく「疲れた。お腹もすいたし次の機会にしよう」皆で居酒屋に行き、お酒も入り、世間話に花を咲かせていたが、コンサートの話にもどると、またまた激論、4人はテーブルの上の料理に手もつけず、居酒屋イン・バトルトークとなってしまった。気がつけば終電車に乗り遅れそうな時間になっていた。その後何回となく行われたミーティングは、大激論が当たり前になっていったが

それぞれの価値観や感性の違いからの意見の食い違いとは言え『ここまでやるか』と思うくらいのバトルが繰り広げられた。きっかけを作るのはいつもウッチャンで、最後は皆に突っ込まれて終わる。そんなバトルトークではあるが、一つの目的に向かって4人で前進しているという実感をいつも感じていた。

遠い昔、ウッチャンがまだ20代の頃、横須賀でレコード店に勤務する友人と2人で、アマチュアコンサートのプロデュース活動を6年間していたことがある。お客と店員という出会いであった2人が、レコード会社や有名楽器メーカー主催によるバンドコンテストに矛盾を感じ、俺達でアマチュアバンド自身が納得でき、アマチュアバンドで楽しめたと思ってもらえるようなコンサートをやろうと思いつき、活動を始めた。しかし、始めたはいいが、コンサートのやり方からすべてに渡り意見の相違があり、バトルトークと言うより口喧嘩状態が続いた。コンサートで話し合いを持つ場所はいつも大騒ぎ。2人の行きつけの喫茶店では「コンサートの話をするなら出ていってくれ」と言われ、居酒屋では「2人で来ていつも喧嘩するなら一緒に来るな」と言われ、友人の働くレコード店の中で口論が始まり、何も知らないお客さんが、店員と客が喧嘩をしていると騒ぎになることも一度や二度ではなかった。友人が店を首になるか、ウッチャンが出入り禁止になるか、どちらかと言う状況にまでなったが、2人の中に目指すものは一つと言う大目標があり、コンサートについての言い争いはあっても、お互いにお互いを中傷するような個人攻撃や、他人に陰口をもらすようなことは一度もなかった。

そして、一年をかけ横須賀市文化会館、1500名収容の大ホールを埋めるアマチュアコンサートが行われたのである。コンサート終了までは二人とも必死であった。やがて器材の搬出も終り、出演バンドやスタッフがコンサートの終了を喜んでいる姿を見つめながら、「終わったな」「やったよな俺たち」

2人が知り合ってから初めて握手をかわした。その時「もうやるのやめようぜ、疲れるからな」と約束したのも束の間、一週間後には2回目に向けてのバトルトークを始めていた。

そんなかつての経験を、今の状態のウッチャンがまた経験できるとは、奇跡ではないにしても不思議な感覚を覚え、ミーティングの後に家で飲むビールの妙なうまさに酔うこの頃である。

12月26日、この日は単にチャリティーコンサート当日というだけではなく、我々RPという視覚障害と闘いながら生きている人間の理解と友情の輪が広がる日でもある。そして、JRPS神奈川の、市川・竹川・宮村、この3人の若者が作り上げた深い思い入れが結実し、大きく前進し、さらに若い力が集まり、活動が広がることを願ってやまない。かつてビートルズやローリングストーンズ、ボブディラン、はたまた吉田拓郎、泉谷しげるに夢中になり、楽器を手にしたおじさん・おばさんが、自分たちもやってみようかと思いい立ち、支部の会報に『バンドメンバー募集』の掲載のあった日には、ウッチャン大喜びだ。このコンサートが一回で終ることなく、またコンサートだけではなく、違った形の神奈川らしい活動が生まれるのを期待したい。

最近ではミーティングのたびに「ウッチャン、人の話ちゃんと聞いている」とか「それどういう意味?」とか突っ込まれることに心地よさを感じている。ウッチャンはやっぱ変なおじさんである。ウッチャンにとって12月26日は、何かをやりとげた充実感や達成感よりも、コンサート終了後の打ち上げの席で誰も味わうことのできない乾杯の後に飲み干す、格別美味しいビールを飲みたいだけだ。

●月の雫（しずく）

横山国夫（座間市）

月に雫が有るのなら、雲さん今夜の十五夜は
あの山裾に佇んで、流れる星と居て欲しい
月の雫が落ちるなら、風さん今夜の十五夜は
私の瞳に入るよに、そ〜っと見つめて居て欲しい
月の雫を受けたなら、雨さん今夜の十五夜は
川面に映る月影に、涙を見せずに居て欲しい
きっと、きっと、きっと、
まんまるお月さん、見えるでしょう。

—お願い—

使用済みのテレホンカードがありましたら、JRPS神奈川支部事務局のほうまで持ってきて下さいますようお願いいたします。

JRPS神奈川支部会報の点字版、テープ版を希望される方は神奈川支部事務局までご連絡下さい。

神奈川支部事務局：中村善暁

〒253 神奈川県茅ヶ崎市萩園1445-6

TEL. 04 * * * * * * * *

FAX. 04 * * * * * * * *



—◇編集後記◇—

最近、我が家でも防災グッズを少しずつ揃えています。ここ1年、想定外の事故が多発（東海村の臨海事故や自衛隊飛行機墜落による停電等）しており、自分の身は自分で守らなければと痛感しています。2000年もいよいよあと少しですが、何が起こってもいよいよ心の準備とある程度の物資を補給しておこうと思っています。備えあれば憂いなし・・・編集部では皆さんの投稿をお待ちしています。どしどし送って下さい！

発行人：身体障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21

編集：JRPS神奈川支部会報編集部
阿部直之

〒213 神奈川県川崎市高津区

TEL・FAX 04

E-mail UE

定価 200円